

イルクーツクの街紹介

中川 愛理

皆さま、はじめまして。わたしは現在、東シベリアのイルクーツクにあるイルクーツク国立大学で日本語講師として勤務しています。昨年9月にイルクーツクに赴任して以来、ロシアでの生活もあっという間に10か月が経とうとしております。派遣されるまでは、私にとってロシアは遠く未知の国でした。ロシア語が全くできなかった私は、イルクーツクに来た当初は(今でも)右も左もわからず、挫けそうになったことが何度もありました。しかし、その度に手を差し伸べてくれたり、協力してくれたりする心優しいロシア人の同僚や学生たち、イルクーツクで生活する数少ない日本人の方々に支えられながら、今まで生活することができています。

今月から3か月にわたり月替わりで、私、イルクーツク国立大学で勉強するロシア人大学院生、日本人留学生三人が、皆さまにイルクーツクの町やイルクーツクでの生活の様子をお届けしていきます。この記事を読んでくださった方が一人でもイルクーツクに興味を持ってくださいますように。

それでは早速ですが、皆さま、ロシアのイルクーツクという町をご存知でしょうか？ひょっとしたら、ご存じでない方が多いかもしれません。では、「バイカル湖」はご存知でしょうか？ここでピンと来た方がいらっしゃるかもしれません。イルクーツクは、モンゴルのちょうど北に位置しており、世界で最も透明度が高く、最も深く、最も古い世界自然遺産の「バイカル湖」がある町です。昨年よりイルクーツクには春夏に成田からの直行便が運行を開始し、日本から5時間で来るこ

とができるようになりました。時差も少なく、日本とは一時間しかありません。ただ、冬にはマイナス40度にもなる極寒の町に変貌を遂げます。

そんなシベリア、イルクーツクの町にも日本や日本語が大好きな多くのロシア人学生が日本語を勉強しています。4月には赴任しているイルクーツク国立大学で東シベリア地域日本語弁論大会、カラオケ大会が行われ、シベリアの様々な地域から多くのロシア人学生が参加しました。また、町の図書館や博物館で書道や折り紙のクラスを開講すれば、興味を持って足を運んでくださる一般のロシア人の方も非常に多く、日本への興味、関心の高さを感じます。

イルクーツクに住んでいる日本人は10人以下と日本人の少ない地ではありますが、イルクーツク—成田間の直行便が運行を開始したことで、町中で日本人の方を見かけることも増え、日本の方にも少し訪れやすい場所になったのではないかと思います。皆さま、機会があれば是非一度、雄大なバイカル湖を見にイルクーツクへいらしてください。

間もなく、イルクーツク生活一年目が終わろうとしています。二年目もイルクーツクと日本の心の距離がさらに近づけられるよう、自身にできることは何かを考え活動してまいります。(日露青年交流センター派遣、イルクーツク国立大学日本語教師)

(参考) イルクーツク国立大学日本語コース

Instagramページ:<https://www.instagram.com/irkutsknihongc>